令和４年度　学校自己評価システムシート　（埼玉平成中学校）

目指す学校像	第一希望の進路実現のために必要な学力や知識を身につけさせるとともに、実践をとおして豊かな人間性を磨き、Society5.0の時代を迎える厳しい社会の中でたくましく生き抜くために必要な資質や能力を身につけさせる学校づくりを目指す。
重点目標	AIの時代だからこそ必要とされる「人間力」を育てる １ 科学的思考力の育成 ２ 英語力を鍛える教育の徹底 ３ コミュニケーション能力の強化 ４ 徹底した論理的思考力の育成 ５ 将来を見据えた進路指導 ６ リモート教育の実践 ７ 生徒募集を強化し、入学者数の増加を目指す

達成度	
A	ほぼ達成　（８割以上）
B	概ね達成　（６割以上）
C	変化の兆し（４割以上）
D	不十分　（４割未満）

出席者
学校関係者　３名 事務局（教職員）　４名

学校自己評価										学校関係者評価
年度目標					令和４年度評価					実施日令和5年3月11日
					中間　(9月10日現在)		令和４年度末　（３月　１１日 現在）			
番号	重点目標（評価項目）	現状と課題	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の進捗状況	達成度	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	教科横断的思考力の育成	・AIの時代に立ち向かっていくための総合的な視点に立った思考力が充分に身についていない。 ・体験的な実践が十分ではない。 ・研究施設や博物館を訪問しての学習が十分ではない。	・埼玉大学STEM教育センターとの連携によるSTEM教育の推進する。 ・ﾀﾞ･ﾀﾞｨﾝﾁの橋の製作から、土木建築物の構造や安全のしくみについての学習を実施する。 ・ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸでの秩父地方の植物観察や鍾乳洞見学。 ・地球観測センターなどへの訪問学習を実施する。	・学年ごとのSTEM教育の年間目標 中1: ｾﾝｻｰの活用 中2: ｾﾝｻｰを利用したﾛﾎﾞｯﾄの作成 中3: ｾﾝｻｰの値を利用したﾃﾞｰﾀの処理 ・様々な種類の橋についての調べ学習の成果とその取り組み内容 ・ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸの取り組み内容と成果 ・施設訪問学習のレポート	・１学期のSTEM教育 中１：scratchの基本操作 ｾﾝｻｰ、ﾓｰﾀｰへの接続 中２：ﾓｰﾀｰとｷﾞｱを利用した回転の制御 自動ドア模型の製作 中３：光センサを使用した教室の照度の記録及び、レポートの作成方法 秩父地方の自然林と人工林の生え方の違いや、この地域に生息する野生 の動物について学習することができた。 ・ｻｲｴﾝｽﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸの事後学習で班ごとに「動物と植物のかかわり」「大峰山の自然について」「大峰山の木々について」「大峰山の様子について」のタイトルで調べ学習をまとめ、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ形式の発表を行なった。	A A A	・STEM教育では各学年とも年度当初に計画していた目標段階まで達することができた。 〈２学期のSTEM教育〉 中１：ﾓｰﾀｰを利用した車模型の製作 中２：ボール運搬ロボットの製作 中３：身のまわりの問題解決 身近な課題をﾌﾟﾚｲﾝｽﾄｰﾐﾝｸﾞを用いて発見する 〈３学期のSTEM教育〉 中１：金属と抵抗ｾﾝｻｰを利用したｹﾞｰﾑの製作 （太鼓の達人のようなもの） 中２：・光ｾﾝｻｰを利用したｹﾞｰﾑの製作 ※人感ｾﾝｻｰを利用したｹﾞｰﾑ 中３：2学期の授業で見つけた身近な課題を解決するための装置を作成し，ｽﾗｲﾄﾞにまとめて発表する（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ） ・群馬県立自然史博物館を訪問し、地球の生い立ちを自然と生命の歩みとともにたどりながら、壮大な進化を学習することができた。 ・埼玉県環境科学国際センター訪問 身近な環境問題の学習、 地球全体のﾌﾟﾚｰﾄや津波の発生過程の学習をすることができた。	A A A A	・4年目を終えた埼玉大学STEM教育センターとのSTEM教育も充実しつつあり、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞを中心とした教科横断的な教育の実践ができた。 次年度も引き続き、埼玉大学STEM教育センターの協力のもと、時代の流れを見越した取り組みをしていき、小学生のいる家庭にもアピールしていく。 ・学年の枠を越えて、校外に出ていきながらできる調査活動等を充実していく。 ・研究施設等の訪問を企画していき、そこで研究員の方からの解説を聞けるようなことも計画していく。	・埼玉大学とのSTEM教育は受験生の保護者に対して訴求効果のある取り組みである。募集活動でも積極的にアピールしていきたい。 ・子供たちが将来社会に出た時に、身につけておいて良かったと感じられる技能である。 ・実生活での問題点を改善できるかを考え、取り組ませようとする姿勢は素晴らしい。 ・コロナ禍にもかかわらず、校外施設を訪問しながら学習する企画を積極的に取り入れていることは称賛に値する。
2	英語力を鍛える教育の徹底	・英検で全員が目標級に合格できるようにすることが課題である。 ・ｽﾋﾟｰｷﾝｸﾞとﾗｲﾃｨﾝｸﾞの力が充分に身についていない。 ・海外の人々との交流を広げ、生きた英語に触れる機会を増やすことが課題である。	・学年ごとに合格目標級を設定し、英検対策授業をさらに充実させ、目標級合格を目指す。 ・毎朝のNHK英語講座での英語学習やEnglish Station（英会話サロン）で検定のｽﾋﾟｰｷﾝｸﾞ対策を取り入れた会話練習を実践する。 ・英語絵日記を書かせることでﾗｲﾃｨﾝｸﾞの力を身につけさせる。 ・オーストラリアやアメリカの人々とオンラインでの英会話の機会を増やし、文化の違いなどを学習しながら、手紙等の交換などで交流を深めていく。	・学年ごとの英検合格目標 中1:　４級 中2:　３級 中3:　準２級 ・英検やGTECのﾗｲﾃｨﾝｸﾞ問題でのｽｺｱ結果 ・英検２次試験では100%の合格を目指す ・海外の人々との会話を通して学んだことをレポート用紙にまとめる	・コロナ渦で中止していた昼休みの英会話サロンを再開し、ﾈｲﾃｨﾌﾞ教員との自由英会話を順番制で実施した。 ・オーストラリアの大学生やアメリカカリフォルニア州のMoreau Catholic High Schoolの生徒達と定期的にオンラインでの英会話体験ができている。 ・中３　東京ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｹﾞｰﾄｳｪｲでの語学研修で模擬留学を想定した英会話を実践した。 ・学期に１曲の英語の歌を覚える １学期：Sing	B A A B	夏季休業・冬季休業中の思い出を生徒が英語での絵日記にまとめて提出し、校内に掲示した。 アメリカ カリフォルニア州のMoreau Catholic High Schoolの生徒達と定期的なオンライン英会話で、日本での出来事や日本のアニメの歴史、都道府県の紹介、日本の料理についてなどをﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ形式で伝えることができた。 ・中３　福島県のﾌﾞﾘﾃｨｯｼｭ・ﾋﾙｽﾞでの語学研修でさまざまな場面での英会話を体験した。 ・12月に実施したGTECでは、２名の生徒がCEFR-J LEVELでＢ１ランクを得ることができた。 そのうちの１名が1,000以上のスコアを獲得したので、成績優良賞を受賞することができた。 ・学期に１曲の英語の歌を覚える ２学期：Country Road ３学期：Stand by Me	A A A A A	・English Stationを活用した英検２次試験対策での面接練習を計画的に実施しているので、２次試験の合格率はほぼ100%に近い結果を出している。 次年度もこの対策練習を継続していく。 ・中学１年生のたGTEC JUNIORはすべてタブレットを使用する新しい４技能タイプの検定であるが、これからの時代はタブレットを使用する検定が多くなると予想されるので、来年度も実施していきたい。 ・オーストラリアやアメリカとのオンライン英会話を定例化し、自分の考えを英語で相手に伝える機会を増やしていく。 ・東京ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｹﾞｰﾄｳｪｲなどの国内の英語施設を活用することを全学年で企画していく。	・海外とのオンライン英会話を定期的に実践できていることはとても素晴らしい。毎月トピックスを変えながら日本について海外の生徒たちに伝えていくことはお互いの学校にメリットがある。 海外旅行がまだ難しい状況の中、海外の生徒たちとライブで話合えるのはとても貴重な体験である。 ・英検の２次試験の合格率が高いのには感心する。日頃からの対策の成果が出ている。 ・英検の学年ごとの目標を設定し、目標達成を目指した取り組みを行っていただきたい。

3	コミュニケーション力の強化	・自分の考えを表現する「言語力」をしっかりと身につけることが課題である。 ・人前で自分の考えを適切に伝えられる力が十分に身についていない。 ・CAPSの時間等で自分の考えをｸﾞﾙｰﾌﾟの仲間に伝え、ｸﾞﾙｰﾌﾟを上手にまとめていく力を身につけることが課題である。 ・日本語検定において学年ごとに目標級を設けて、努力させることが課題である。	・ノルティースコラ手帳の活用をさらに徹底し、日記の習慣を定着させる。 ・研究発表会で自分の考えを豊かな表現で発表できるように指導していく。 ・ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞの実践により自身の考えを意欲的に伝える機会を増やしていく。 ・自分の考えをCAPS等を通してｸﾞﾙｰﾌﾟ内で伝えられる機会を増やし、主体的に学ぶ力を育成する。 ・講話や諸行事等での感想文指導を強化していく。 ・授業の中で対策のための時間を工夫していく。	・ノルティスコラ手帳の記録 ・手帳甲子園への作品応募 ・研究発表会の成果 ・「主体的・対話的で深い学び」の実践 ・諸行事での感想文の成果 ・学年ごとの日本語検定合格目標 中1: ５級 中2: ４級準認定 中3: ４級	・文化祭の開催が１学期になったため、校内手帳甲子園の準備期間が短く、実施が難しかった。 ・７月にCAPSを実施した。学年を縦割りにしたチーム編成にし、より高い利益を出すために活発な意見交換をする光景が見られた。	C A	・生徒達は概ね手帳の活用ができている。 ・多くの教科や道徳の授業の中で「主体的・対話的で深い学び」の実践ができている。 ・全学年合同での道徳授業を年間で７回実施し、各テーマで学年を超えた意見交換をすることができた、 ・12月、3月にも学年を縦割りにしたチーム編成でのCAPSを実施し、他のチームよりも高い利益を出すために主体的に考え、協力しながら話し合う機会を得ることができた。	B A A A	・毎日欠かさずに日記をつける習慣が身につくよう継続して指導していく。日記欄に自分の意見を書いていくように助言していく。 ・家庭での学習習慣をつけていけるように、きめ細かく日課を書くように指導し、優秀なものは、手帳甲子園に出品していく。 ・道徳の授業内で自分の考えを発表する機会を設け、諸行事や講演会の感想も文章でまとめられるように指導していく。 ・自分の意見を相手に伝え、また、相手の意見を聞きｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力を身につけさせる機会を設けていく。	・研究発表会で自分が考えていることをしっかりと相手に伝えられる能力を身につけることは大切なことである。 ・ノルティスコラ手帳の活用は将来社会に出てからも役に立つことを若いころから習慣として身に着けられることは素晴らしい。 ・手帳の活用が上手にできるようになれば、自己管理能力が身につき自律できる。 ・CAPSを通して若い時から経営に関する感覚を身に着けられることは大事である。
4	徹底した論理的思考力の育成	・生徒のプレゼンテーション能力を一層向上させることが課題である。 ・将来の大局的な視点に立った経営的な手法が充分に身についていない。 ・教科横断的な思考力が充分に身についていない。	・研究発表会の準備を６月からスタートさせ、指導する。（再掲） ・聴衆の前で発表できる技術力と組み立て方法を育成する。 ・経営ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝｹﾞｰﾑのCAPSを通して利益を出すための論理的な思考を鍛える。 ・STEM教育を通した論理的思考力を育成する。（再掲）	・研究発表会におけるプレゼンテーション ・大局的なものの見かたの定着度 ・CAPSの取組みの結果 ・俯瞰的で、先を読んだものの見かたの定着度 ・STEM教育の成果	・研究発表会に向けたｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝを実施した。夏休み前に、全生徒が今年度の各自のテーマを決め、準備を始めた。 ・学年を縦割りにしたチーム編成をしながら、各自の経営に対する考えを言い合いながら、ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ上での利益追求を競い合うことができた。	A	・生徒たちは各自の研究発表の構成表を作成し、「起・承・転・結」の構成を組み立て、自身の見解を論理的にまとめながら発表することができた。 ・今年度は各学期に１度のペースでCAPSを実施することができた。勝つことを意識して取り組もうとするチームが多く、より高い利益を出すために各自が思う意見を活発に交換し合う光景を見ることができた。	A A	・研究発表会については、それぞれの生徒の発表内容の質の向上及び、発表時の姿勢、特に目線のを意識した発表ができるように指導していきたい。また、YouTube配信を継続していきたい。 ・STEM教育では、さまざまなﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの原理を理解しながら、論理立った製作ができるように指導していきたい。 ・CAPSを学期に１回の実施を企画していきたい。経営についての論理的な思考を養っていきたい。	・パワーポイント(グーグルスライド）を中学生の時から使いこなせる能力を身につけさせているのは素晴らしい。 ・発表の構成も含めてプレゼンテーションの能力が身についていることは将来、社会に出てからとても大きな力となる。 ・研究発表会のYouTube配信は、コロナ禍で保護者に配慮した学校側の努力が感じられる取り組みである。
5	将来を見据えた進路指導	・自分の適性や力の把握が充分にできていない状況である。	・職業に対する意識を高め、仕事の具体的内容について探求する姿勢を持たせる。 ・オンラインでの企業見学を通して、自分の将来を見つめさせる。 ・卒業生の体験談を聞く。 ・スタディサプリを活用する。 ・学習支援センターを活用する。	・キャリアに対する意識を持たせる行事の企画 ・進路意識の定着 ・卒業生による講演会の企画 ・模擬試験や学力コンテストの実施	・卒業生で一般企業（JR東日本、JALスカイ、アイリスオーヤマ）で働いている方々に出演していただき、仕事のことや中高時代、学生時代についてのお話を聞くことができた。	A	・ベネッセ社の学力推移調査を年３回実施した。全国の私立中学生の中での各自の学力的な位置を確認 ・リクルート社のスタディサプリを活用した苦手分野を克服するための学習指導 ・リクルート社の到達度テストを定期的に実施することにより、各自の弱点を確認し、その復習を計画的に行う。 ・中３生は北信テストの過去問を受験し、県内での学力的な位置を把握	A A A A	・社会人編の「卒業生を囲む会」の実施をとおして、中学生に職業に対する意識を芽生えさせたい。 ・大学との連携を継続して、キャリア学習会を企画していきたい。 ・感染症の落ち着き状況を見ながら、有識者の講師の方の講演を検討していきたい。	・社会人になった卒業生から仕事についての話を聞くことは生徒たちが職業に対して関心を持つための良い機会になると思う。 ・嘉悦大学の土橋先生を通したつながりをこれからも大切にしていくべきである。。 ・ｽﾀﾃﾞｨｻﾌﾟﾘを有効に活用していくことが生徒の学力向上につながる
6	リモート教育の実践	・コロナ渦の新しい生活様式で、インターネットを通したオンライン授業を実践していくことが課題である。	・感染症の拡大状況によって、ｸﾞｰｸﾞﾙ ﾐｰﾄやZOOMを使用してのオンライン授業の充実を図る。 ・学校行事のリモート化の可能性を探る。	・常にオンライン授業に切り替えられるよう準備しておく ・ｵﾝﾗｲﾝ工場見学会などのリモートでの取り組み	・生徒一人ひとりにタブレットを持たせることにより、授業内でも新たな取り組みができるようになった。 ・森永乳業の神戸工場のオンライン工場見学に参加し、ヨーグルト商品の商品開発の工夫や製造工程等を学習することができた。	A A	・12月に実施したトヨタSDGs教室では、「ｶｰﾎﾞﾝﾆｭｰﾄﾗﾙ」等 についての知識を深め、近未来に向けての新たな取り組みを理解することができた。 ・２月に実施した研究発表会では、YouTubeを利用し、生徒の発表を保護者に対しライブ配信することができた。	A A	・有益なオンライン工場見学会を定期的に実施し、総合的な学習の機会を増やしていく。 ・全学年の生徒がタブレットを所有することになっていくので、タブレットを活用した授業の研修をしていきたい。	・ｵﾝﾗｲﾝ工場見学会やZOOMを使用した海外の学校等との交流は時代の流れに合った最先端の取り組みが実施できている。とても素晴らしい。 ・タブレットを上手に使用した授業展開を期待したい。
7	生徒募集の強化	・生徒募集を強化し、入学者数の増加を目指す	・ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ、Facebook、InstagramなどのSNS分野の強化 ・動画(YouTube)を使用し、生徒の生き生きとした活動風景を配信していく ・魅力的な募集行事の企画 ・塾訪問の強化による塾との良好な関係の構築 ・新たな入試制度の導入による受験者数、入学者数の増加を目指す	・ﾌｫﾛｰﾜｰ数の増加 ・募集行事の参加者数の増加 ・受験者数の増加 ・入学者数の増加	・第１回学校説明会(6月） 研究発表会報告 来場者 216%アップ ・第２回学校説明会(7月） STEMセミナー 来場者 115%アップ ・第３回学校説明会 ダヴィンチの模制作 来場者 114%アップ ・第４回学校説明会(9回） 理科体験授業・ｻｲｴﾝｽﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ報告会	A A A A	・第１回入試説明会(10回） 入試問題解説セミナー 来場者 167%アップ ・第２回入試説明会 (11月） 模擬入試問題 来場者 180%アップ ・第３回入試説明会(12月） 各教科からﾜﾝﾎﾟｲﾝﾄﾄﾋﾟｯｸｽ 来場者 107%アップ ・ﾌｫﾛｰﾜｰ数の増加 ｲﾝｽﾀｸﾞﾗﾑ 200%ｱｯﾌﾟ、Facebook 101%ｱｯﾌﾟ ・受験者数 102%アップ ・入学者数 250%アップ	A A A A A	・ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ、Facebook、InstagramなどのSNSを活用し学校での生徒たちの生き生きとした活動風景をタイムリーに発信していく。 ・地元から県南部・都内の広範囲から入学生を受け入れられるように募集活動に力を入れていきたい。	・各説明会に合わせたチラシ等をこまめに作成していることには感心する。 ・少子化の時代で生徒募集が難しい中、目標の人数を募集できたことは素晴らしいことである。 ・来年度以降も継続できるよう期待したい。

＊STEM教育とは、アメリカのオバマ前大統領が推進した教育システムで、これからの時代を担う子どもたちに必要な資質を統合的に身に付けさせていくという先進的な取組です。「STEM」とはScience(科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Mathematics（数学）のそれぞれの単語の頭文字をとったものです。この教育は創造、変革、問題解決に必要な力を育てるもので、単なる理系科目教育やプログラミング教育ではなく、教科横断的に取り組み、社会や創造性と密接に結びついた生徒の主体性を育む総合的な教育システムです。